

■【トピックス】
コロナ・ショック！



広がり続けるコロナウイルスによる新型コロナウイルスの感染ですが、世界各地で死者が増加しています。金融市場も混乱しています。このまま世界経済はリセッション(不況)入りしそうです。問題はその大きさと長さです。

ほぼリーマン・ショックを超える規模になるといわれています。初期対応の遅れが今回の事態を大きくしました。このような有事には真のリーダーシップが求められます。

■【ビジネス・アイ】
コンティンジェンシー・プラン！

- 社長 「新型コロナウイルスの感染の広がりが止まらないね。うちの会社も売上が落ち込んで困っているよ」
- 花野 「そうですよ。どこの企業も影響が出てますね。まだまだ先が見えませんか」
- 社長 「本当だよ。この分だと夏のオリンピックも難しそうだね」
- 花野 「そうですね。こんな時には、コンティンジェンシー・プランの策定が必要ですね」
- 社長 「そのコンティンジェンシー・プランって？BCPとは違うのかな？」
- 花野 「BCPは事業継続を目的としていますが、コンティンジェンシー・プランは、不測の事態が起きた時の対応を定めた計画です」
- 社長 「うちでいうとどういうことかな？」
- 花野 「たとえば、従業員の方やそのご家族が、もし新型コロナウイルスに感染した場合に、どうするか、事前に対応を決めておくことですね」
- 社長 「そういうことなら、従業員だけでなく仕入先や得意先などの取引先で感染があった場合も考えておいた方がいいね」
- 花野 「そうですね。それから銀行などの不要不急の営業来訪を断ることを検討した方がいいかもしれませんね」
- 社長 「そうだね。収束がみえるまで用心に越したことはなさそうだね」
- 花野 「そうですね」

■【今月のキーワード】
コンティンジェンシー・プラン

コンティンジェンシー・プラン(Contingency Plan)とは、企業が、自然災害やテロなどの不測な事態に備えて、その被害を最小限に抑えるために、あらかじめその事態が発生した場合に取りうる対応策などを定めた計画のことです。あえて日本語にすれば「緊急時対応計画」となります。BCP(Business Continuity Plan)は、事業継続を目的としていますが、コンティンジェンシー・プランは不測の事態が発生した場合の被害を最小にすることを目的としていることが相違します。

■【今月の1冊】
『古代スラブ語の世界史』

服部 文昭 著
白水社 ¥2600

スラブ民族というとロシアぐらいしか思い浮かびませんが、中世には東ヨーロッパに広く分布していました。

当時、彼らは共通語としての古代スラブ語を話していましたが、文字を持ちませんでした。この本ではスラブ民族の歴史と失われた古代スラブ語の歴史を知ることができます。教科書にない歴史がそこにはあります。



■【編集後記】

新型コロナウイルスの感染が広がる中、2月中旬にベトナムのハノイに出張してきました。さすがに独裁政権のために入国管理など感染対策は万全でした。すでに学校は休校していましたので、日本の休校は遅いとさえ感じました。

『経営のセカンド・オピニオン』vol.157 (毎月1日発行)

- 定価：2,400円/年 ●発行日：2020.4.1 ●発行人：花野康成
 - 編集・発行：有限会社ビジネス・インスパイア
- 〒460-0003 名古屋市中区錦3丁目1番30号錦マルエビル5F
TEL.052-205-6361 FAX.052-204-8808